

映画「別れの曲」：
ピアノとフルートのデュオによるフィルムコンサート

別れの曲

(ピアノの詩人ショパンの愛と青春を描いた音楽映画の傑作)

2013.9/16 月(祝)

栃木市都賀文化会館(ハートホール)

1回目 上映時間 10:00 (開場時間 9:30)

2回目 上映時間 14:00 (開場時間 13:30)



主な演奏予定曲目

- ▶ エチュード第3番「別れの曲」 ショパン作曲
- ▶ 愛の挨拶 エルガー作曲
- ▶ アルルの女より「メヌエット」 ビゼー作曲
- ▶ ハンガリー田園幻想曲 作品26 ドップラー作曲
他

栃木市出身。栃木女子高等学校卒業。フェリス女学院大学音楽学部器楽学科ピアノ専攻卒業、及び同大学アンサンブルディプロマ科修了。2005年、フランス国立ヴェルサイユ地方音楽院高等科を満場一致の一等賞で卒業。2006年、同音楽院特別課程ディプロム取得後、帰国。早稲田大学交響楽団・東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団とピアノ協奏曲を共演。



荒井庸子 (Arai Yoko) Piano

UFAM 国際コンクール、ピカルディコンクール、その他コンクールやコンサートにて多数伴奏を行う。フランス、韓国、日本において数々のコンサートに出演する。

現在は、室内楽、伴奏、ソロ活動の傍ら、後進の指導にも力を入れている。ピアノを大貫忠次、二宮裕子、上原興隆、立神粧子、Edda ERLENDSDOTTIR、伴奏をChristine ROUAULT、室内楽をJean-Pierre SABOURET、Jacques CHARLES、Francois GONZALESの各氏に師事。



清水 彩子 (Shimizu Ayako) Flute

足利市出身。白鷺大学足利高等学校音楽科卒業。東京ミュージック&メディアアーツ尚美コンセーラヴァトワールディプロマ科修了。在学中、選抜オーディション(全学年合同)にて最年少でフレッシュコンサートに出演。第12回全日本ソリストコンテスト入賞。オペラシティリサイタルホールにて入賞者披露演奏会に出演。

第8回静岡県フルートコンクール第2位。静岡音楽館AOIにて受賞者記念コンサートに出演。第30回日本フルート協会主催デビューリサイタルに出演。これまでにフルート

を中野富雄、さかはし矢波、峰岸壮一、三上明子の各氏に師事。ハンブルグ音楽セミナーにて、ハンス・ウド・ハインツマン氏のマスタークラス受講。ピッコロをラファエル・レオーネ氏のマスタークラス受講。現在ソロ、室内楽奏者として活躍しながら後進の指導にあたっている。

チケット/全席指定 ※就学前のお子様の入場は、ご遠慮願います。

大人 1,000 円 / 小人 500 円
(中学生以下)

チケット発売 7月30日(火) AM 9:00~

◆お問合せ/栃木市都賀文化会館(ハートホール)
☎0282-27-8855

プレイガイド

栃木市都賀文化会館
栃木市栃木文化会館
栃木市大平文化会館
栃木市藤岡文化会館
イオン栃木店
八百林商店[西方町]



映画『別れの曲』について

Staff & Cast

監督：ゲツァ・フォン・ボルヴァリー
脚本：エルンスト・マリシュカ
撮影：ヴェルナー・ブランデス
音楽監督：アロイス・メリヒャー

出演

フレデリック・ショパン：ヴォルフガング・リーベンアイナー
コンスタンティア：ハンナ・ヴァーグ
ジョルジュ・サンド：シビル・シュミッツ
フランツ・リスト：ハンス・シュレンク
エルスナー教授：リヒャルト・ロマノスキー
グワトコフスカ夫人：ユリア・ゼルダ
(コンスタンティアの母)
カルクブレンナー：グスタフ・ヴァルダウ
プレイエル：パウル・ヘンケルス
アルフレッド・ミュッセ：アルベルト・ヘルマン
オルレアン公爵夫人：エルナ・モレーナ



1934年/ドイツ映画/ドイツ語/91分/モノクロ/モノラル/スタンダードサイズ
制作/Boston-Films-Co./提供：ベータフィルム/配給：T&Kテレフィルム

Story

ポーランド・ワルシャワ。新進気鋭のピアニストとしてデビューを果たしたばかりの若きショパンは、歌手を目指すコンスタンティアとの恋と、ロシア帝国の圧政にあえぐ自国ポーランドの独立運動に、胸を熱く昂ぶらせる青春の日々を送っていた。音楽教授エルスナーは愛弟子ショパンの天賦の才能を革命に散らせてはならないと考え、出国を渋るショパンを説得するため、コンスタンティアに力を貸してくれるように頼む。コンスタンティアはショパンへの思いに揺れながらも、意を決して彼の旅立ちを後押しするのだった。

パリへ出たショパンは、動乱に揺れる祖国ポーランドへの想いを自らの曲と演奏に託し、その才能を見抜いた人気女流作家ジョルジュ・サンドや、フランツ・リストとの出会いを通じて、パリ社交界の寵児となってゆく。ジョルジュ・サンドとショパンが互いに強く惹かれあう一方、ワルシャワのコンスタンティアは自らの愛と再会を信じてパリに向かうのだが…
1934年に制作されたこの映画は、翌年の昭和10年(1935)にフランス語版が日本でも公開され*大ヒットとなりました。

*同年『キネマ旬報』ベストテン8位。日本公開されたのは俳優のみを入れ替えて作られたフランス語版。当時のヨーロッパ映画は、数カ国語版を各国の俳優を使い同時撮影することがあった。

監督は「モナ・リザの失踪」(1931)、「春のパレード」(1934)などで知られ、生涯で100本以上の映画を撮影した巨匠ゲツァ・フォン・ボルヴァリー。ハンガリーの劇作家エルンスト・マリシュカが脚本と《別れの曲》の作詞を手掛け、撮影は無声映画時代から活躍し「ムーラン・ルージュ」(1928)、「少年探偵団」(1931)などで知られるヴェルナー・ブランデスが担当しました。



ショパンを演じるのは、後に監督として音楽映画の傑作「菩提樹」(1957)や、「朝な夕なに」(1958)などの名作を残したヴォルフガング・リーベンアイナー。

初恋の人コンスタンティアを演じるのは「カラマーゾフの兄弟」(1930)のハンナ・ヴァーグ。

「吸血鬼」(1932)、「世界の王者」(1934)などで知られるシビル・シュミッツが、スタイリッシュな男装と、ゴージャスなドレス姿を交えながら女流作家のジョルジュ・サンドを小気味よく演じています。

*本映画は76年前に制作され、ショパンについて現在考証されている事実から離れたフィクションの部分があります。